

# 伊江島沖大型魚礁調査

## 1. 調査の概要

### (1) 調査年月日

第1次 昭和50年3月2日

第2次 昭和51年9月3日

### (2) 調査方法

設置状況調査……レーダー、山立ておよび魚群探知機で魚礁設置場所を確認の上、ブイを投入しそのブイを中心として放射状に16方位に毎分123 mの速さで航走し魚探により調査した。

漁獲試験……底延縄では午後10時頃投縄して翌早朝揚げ、昼間は片天秤釣りで行った。その結果は表1のとおりである。

### (3) 調査機器類

レーダー ………

魚群探知機……光電製作所 SR - 660 TYPE 12

底延縄及び天秤釣り 第1次 2鉢（1鉢に釣針28本23号 枝間5 m）  
片天秤（釣針21号）

第2次 底延縄1鉢（釣針21～23号枝間4 m）

### (4) 調査船舶 くろしお（21.44トンD100馬力）比嘉幸一船長以下7人の乗組員

## 2. 調査の結果

1図で魚礁設置位置と山立て図、2図で魚礁配置形態模式図、3図で主要断面の魚探記録例、1表で漁獲試験結果を示した。

### (1) 設置場所及び山立て方法

a 設置場所……伊江港先センターブイから南へ1,800 m、中ノ瀬北端より北西1,500 m  
 $lat\ 26^{\circ}-40'-55''\ N\ long\ 127^{\circ}-48'-34''\ E$

b 山立て方法……① 恩納岳と面那島の灯台のあるところの端が真方位 $19^{\circ}45'$ にみられ、恩納岳の右の山の麓と面那島の灯台（端）が一直線になる。  
② 伊江島のイコスコ山と恩納村のオースノハナの頂上が一直線になる（面那島中央を通る線）

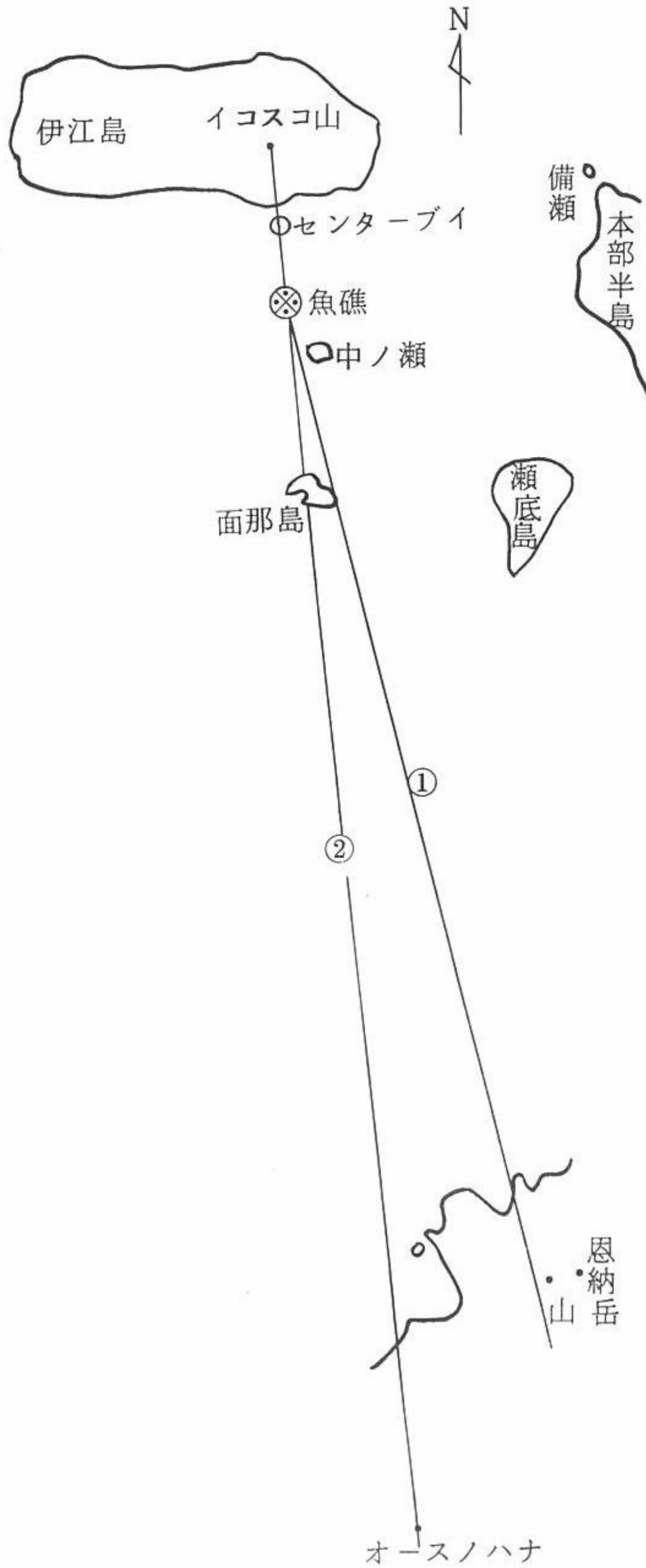
(2) 設置時期 昭和48年度

(3) 設置個数 コンクリートブロック1.5 m角 1,178個

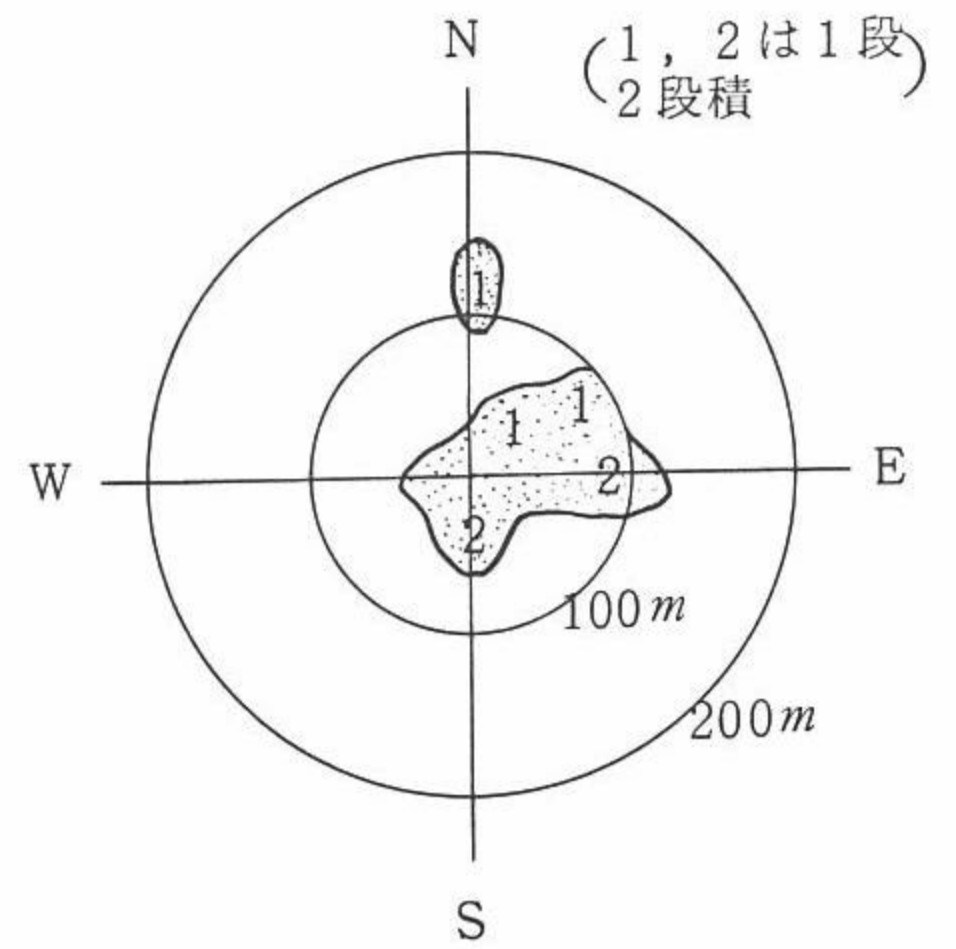
(4) 設置形態 東西に160 m南北に80 mの礁と約40 m離れて北に80 mの礁が設置されている。礁の高さは1～3 mである。

(5) 漁獲試験 ハマフエフキ、アマミフエフキ、ホオアカクチビ、メイチダイ等で8種が釣獲され魚体も大きい。特にハマフエフキ(タマン)が多い、釣獲率は6.6%～17.9%である。主要魚種の写真を別に示す。

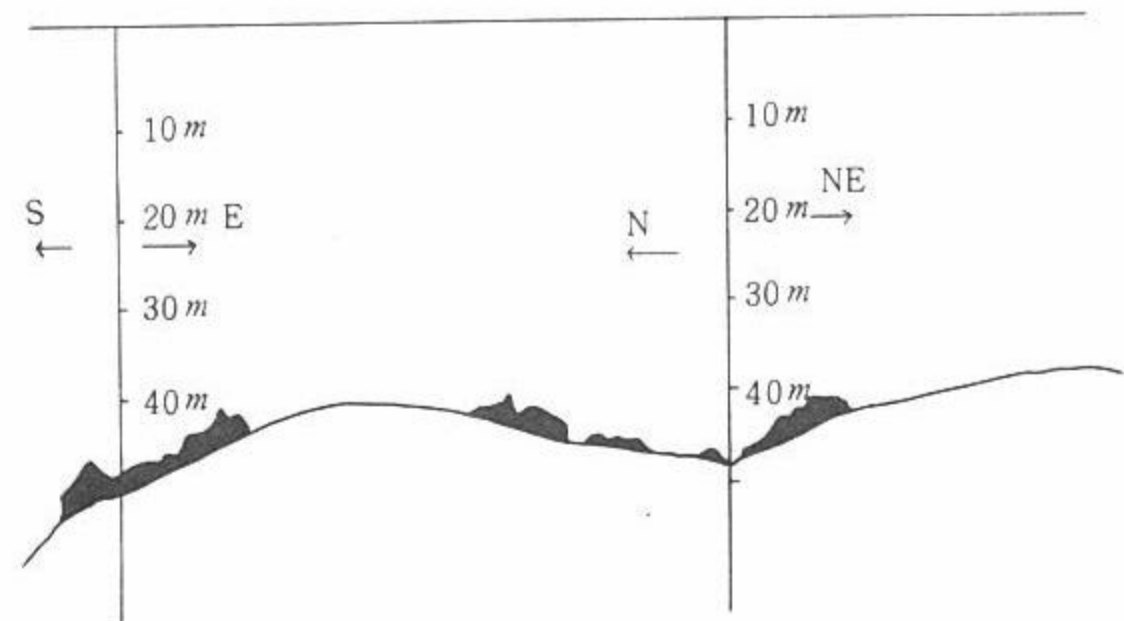
1図 魚礁位置と山立て図



2図 魚礁配置形態模式図

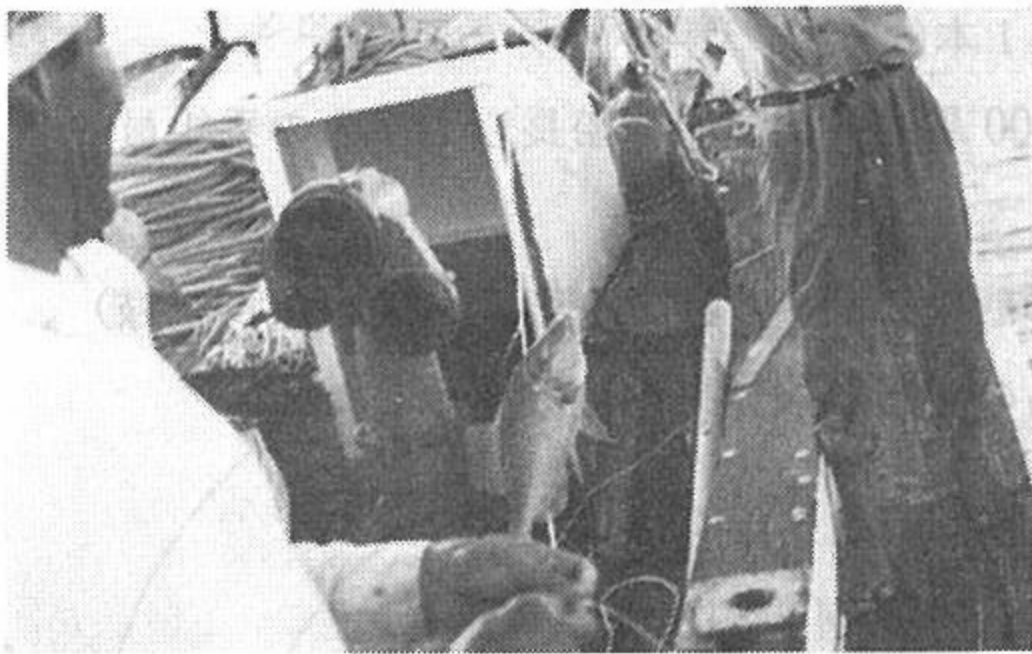


3図 主要断面図 (魚探記録)

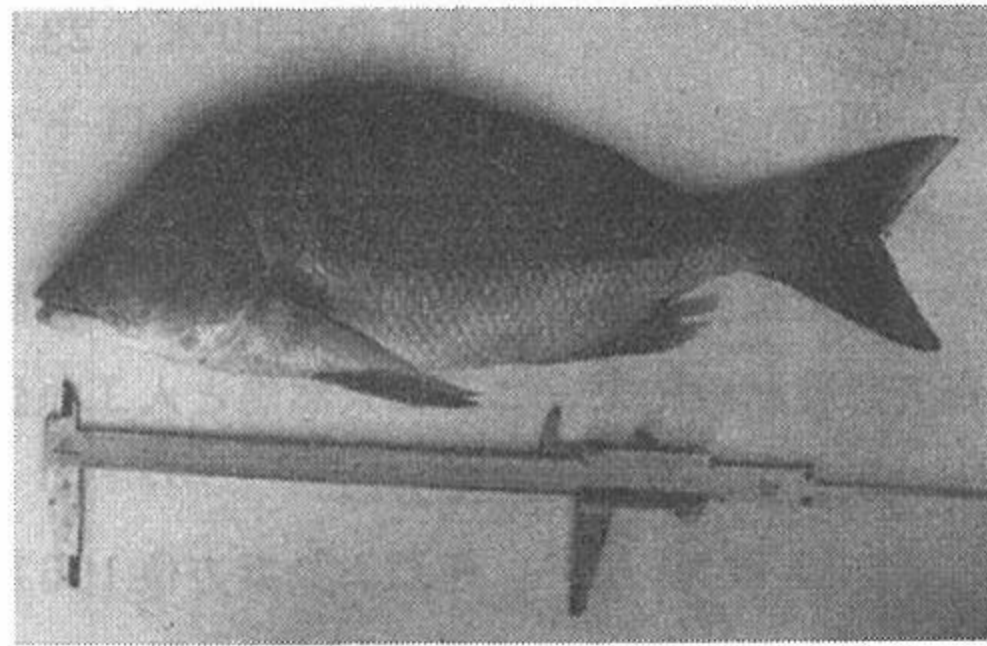


1 表 魚獲試験結果

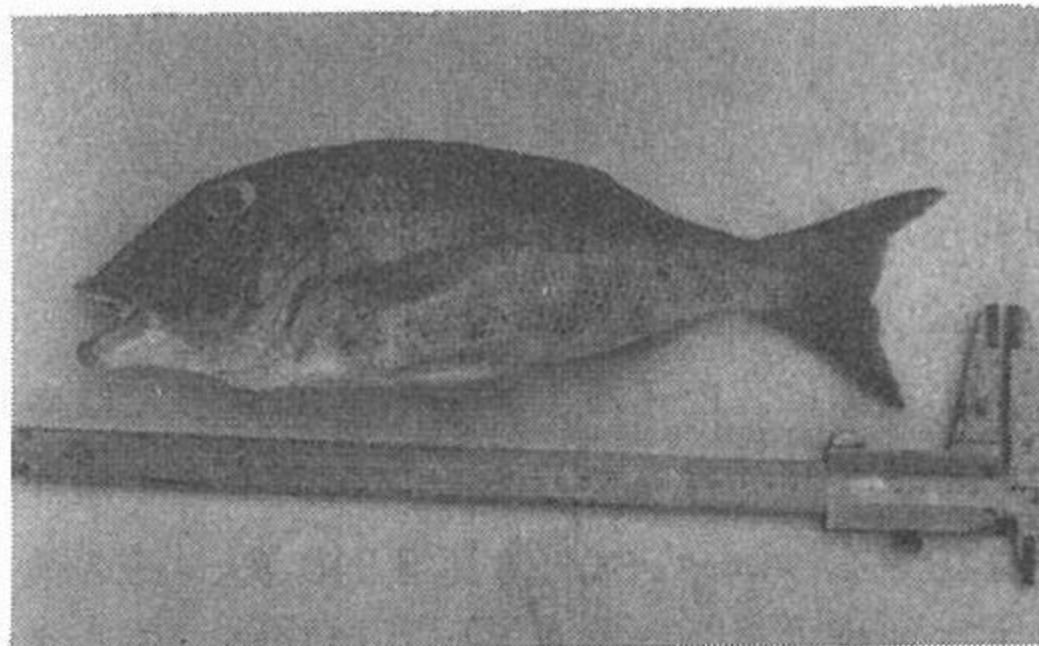
調査年月日	50. 3. 2	50. 3. 2	51. 9. 3
調査船舶	「くろしお」 21.44トン 100HP	〃	〃
調査員	久貝一成	〃	〃
調査回数	1	〃	〃
調査漁具	底延縄 2鉢 釣針56本	天秤釣り 釣針5本	底延縄 釣針数120本
釣獲率	17.9%		6.6%
漁獲量	22,880g	1,430g	10,740g
尾数	10尾	4尾	8尾
漁獲物	ハマフエフキ	4 (9,300g)	2 (6,350g)
	イトヒキフエダイ	1 (510g)	
	アマミフエフキ	3 (1,570g)	1 (1,600g)
	センニンフグ	1 (3,500g)	
	ナヌカザメ	1 (8,000g)	
	ホオアカクチビ		1 (360g)
	メイチダイ		2 (760g)
	ヒメジ (タカサゴヒメジ)		1 (310g)



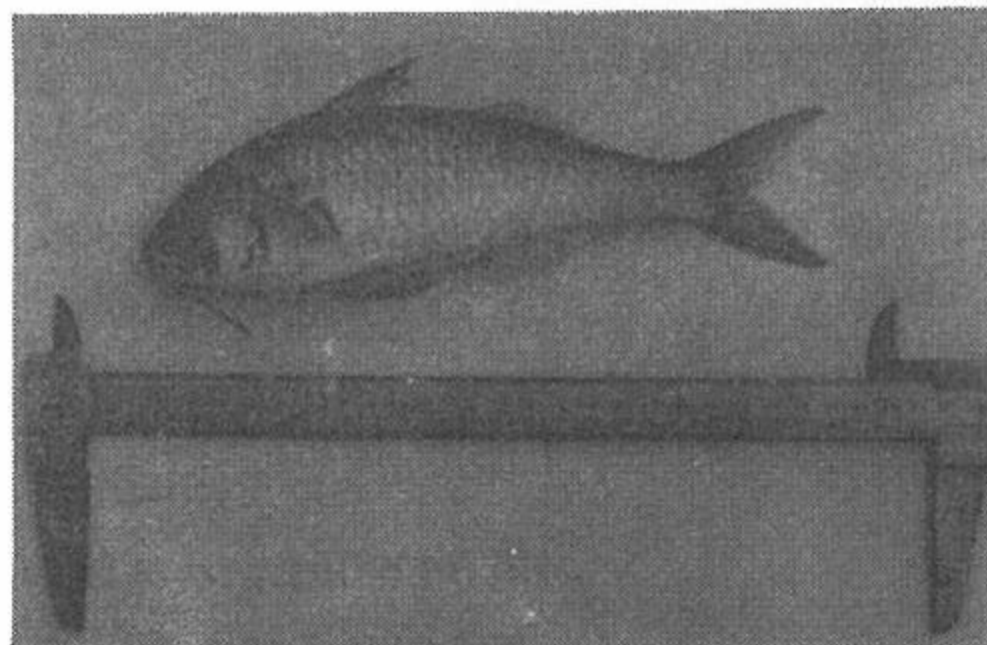
ハマフエフキ (揚縄中)



ハマフエフキ



ホオアカクチビ



タカサゴヒメジ